

## 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は様々な病原体によって起こりますが、ウイルス性の場合、主要な病原体はノロウイルスとロタウイルスです。2010年1月から2012年11月までの間に採取された感染性胃腸炎患者糞便から検出されたウイルスについて、年別、月別検出状況をまとめました。各年ともノロウイルス、ロタウイルスが多く検出されていますが、サポウイルスやアストロウイルス、アデノウイルス 40/41 型、パレコウイルスも検出されています。

また、月別検出状況では、ノロウイルスは1月、11月、12月の検出数が多くなっています。ロタウイルスは2月から6月、特に3月、4月に多く検出されています。それ以外のウイルスでは検出数が少なく季節的な特徴は見い出せませんでした。

2012年12月現在、感染性胃腸炎として採取された検体からはノロウイルスが検出されています。今シーズンのノロウイルスは遺伝子変異を起こしており、2006年の変異株流行以来の大きな流行となる可能性があります。ウイルスの流行状況、遺伝子変異の状況を把握するためにも、積極的な検体採取をお願いいたします。

年別ウイルス検出状況(2010年～2012年11月)

年	検体数	ノロ	サポ	アストロ	ロタ	アデノ 40/41	パレコ	その他
2010	32	4	2		2	2	2	
2011	34	5		2	5	2		4
2012	31	7	3		4		2	

月別ウイルス検出状況(2010年～2012年11月)

